

第二回UNISEC世界大会 (The 2nd UNISEC-Global Meeting)

開催期間：2014年11月18～20日

開催場所：九州工業大学

主催：NPO法人大学宇宙工学コンソーシアム (UNISEC) 共催：九州工業大学

助成支援等：北九州市、三菱UFJ財団、公益財団法人宇宙科学振興会、株式会社IHG Gesellschaft zur Förderung des akademischen Nachwuchses (GeFaN)

後援：内閣府宇宙戦略室、外務省、経産省、文部科学省、JICA、JAXA

協力：International Academy of Astronautics (IAA)

代表者：九州工業大学 宇宙環境技術ラボラトリー 趙 孟佑

UNISECは、実践的宇宙工学教育に関し、43大学（高専含む）から成るコンソーシアムを10年以上運営し、そのノウハウを活かして、2020年までに100か国以上の国で大学生が宇宙開発プロジェクトに参加できるような世界を作ろうという「ビジョン2020-100」を提唱し、海外向け教育プログラム等を提供・実施してきた。2013年11月には、そのビジョンを共有し、UNISECのようなハンズオントレーニングを活用した宇宙工学を学べる大学のコミュニティを設立・計画している国・地域との横断的組織を作ることを目的として、第一回UNISEC世界大会を東京で開催し、UNISEC-Globalの設立を宣言した。本会議は、その宣言を受けて、第二回目となる世界大会を実施したものである。

43ヶ国から144名の参加を得、11か国・地域（Bangladesh, Egypt, Germany, Japan, Lithuania, Nigeria, North Mexico, Samara, South Africa Region Tunisia, Turkey）がローカルチャプターとして、またUNISEC-ヨーロッパがローカルチャプターグループとして認証された。参加者の内訳は、日本から59人、その他42ヶ国から85人であり、そのうち学生は75名、一般は69名であった。

本会議においては、日本の学生が主導した学生セッション、世界各国の活動報告や第三回超小型衛星ミッションアイデアコンテストの最終発表、ROSETTAやQB50、CanSat Leader Training Program (CLTP)の報告に加え、テーマ別のディスカッションを小人数のグループで実施した。本会議は、それらのプロジェクト等の実現に向けて、海外連携活動のネットワーク化の定着をはかり、技術交流に留まらず、各国の国際連携支援プロジェクトの提案や活用方法などの議論を深め、仕掛けと仕組みを検討する重要な場となった。また、展示ブースも設け、技術情報の交換にも寄与することができた。

学生と教員、各大学、産業界、行政等を含むさまざまなレイヤーのプレイヤーたちを国際的につなぎ、既存の組織の活性化と新たなプロジェクトの創出とその実現をはかる場としての機能をもつUNISEC-Globalは始動したばかりであるが、第三回UNISEC世界大会は2015年7月に東京で行うことも決まり、今後の展開に向けての取り組みがすでに始まっている。



会場風景



グループ・ミーティング



集合写真



研究室訪問